第 20 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成 31 年２月７日（木）に，第 20 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1 で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために，事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし，院内外の医師，看護師，MSW，訪問看護師，薬剤師，心理士など参加され合計 48 名の参加者となりました。

当院の腫瘍センター副センター長吉野茂文医師より開会の挨拶があり，当院の緩和ケアセンター三好雅代看護師長を司会として，「緩和ケアミニレクチャー」から始まり，各施設より事例提示があった後，グループ形式で討議を行いました。

緩和ケアミニレクチャー
「親ががんになったときの子供のため位にできる在宅でのケア」

訪問看護ステーションあん　古賀　博美先生

事例：「『運動会に行くからね』患者・家族の希望に沿った外出への支援ができた絨毛がん事例」

山口大学医学部附属病院　産科婦人科　梶邑　匠彌先生
山口大学医学部附属病院　看護部　永見　友希先生

グループ討議では，様々な視点から活発に意見が出され，参加者の方々からは，「初めて事例検討会に参加させていただきましたが内容が濃く，たくさん考えさせることが多かったです。子どもが残されることを考えたとき，子ども視点のケアをどうしていくか考えていこうと思います。」「事例を改めて振り返ることの大切さを感じました。」「病院から地域へつなげていく際に，互いにカンファレンスを行い情報提供を行うことでショートステイにしても一泊の外泊にしても，患者や家族が不安なく在宅生活を送れ、患者の希望に添える看護や医療の提供ができると思います。早期介入はもとより，具体例を提示して患者に安心して医療を提供できる関りや介入が必要と思いました。」などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は，様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き，誠にありがとうございます。本検討会は，今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解，ご協力よろしくお願い申し上げます。

≪検討会風景≫